大和俗訓 一 二

為學

ロ 9
3800
1

門口 8
號 3800
卷 1

益軒貝原先生著

大和俗訓

洛陽 書舗 柳枝軒藏版

大和俗訓序

古之教者必本於躬行不則受教之人弗能化也其躬行者必推而教人不則體仁之分未能盡也益軒先生學極該博行致敦厚其教人者皆出於躬行之餘而孳孳思人之為善然其秉心恭謙不敢以道學之名自處之也先生著書也夥矣蓋謂志聖學者宜上誦洙泗之懿訓下讀濂洛之

遺書而足焉後輩妄添隻言者所謂畫蛇
足也故其所著述只勤要爲民俗之益而
不敢好夸高耀人也此先生之志也先生
嘗憂世俗不能讀聖賢之書者無知日用
彝倫之道於此作爲喻俗之書乃書以國
字名以大和俗訓唯欲庸輩之易讀而不
厭其言之鄙近矣先生愛人之誠意可謂
厚也定直竊謂學者貴自得苟不自會於

心則不能發於行歷陳聖賢千言萬語朝
誦暮讀亦所謂雖多亦何爲與其勞於博
而不知要孰若得一言而行之於躬此此
編也其言雖近其爲教親切著明可以起
懦夫廉頑夫矣卷帙雖不多其爲用廣博
周詳自爲學之道心術之要以至衣服言
行應事接人之法無不畢備矣夫言近者
誦之易感旨遠者用之不盡學者其遂志

務讀會之於心實之於身則其益亦不尠
矣孟子曰服堯之服誦堯之言行堯之行
是堯而已矣苟能讀此編實之於身則所
謂堯之徒而已豈復憂不至君子之域耶
然則此編豈獨為武人俗吏而已哉讀者
不可以其近而忽之也

寶永丁亥初冬日　筑州後生竹田定直書

大和俗訓自序

あめつちのことわりにしたがひ人の道は古聖人あれをかゝ
典よりあきらかなるひとつの形ち事月日乃天よ
りくだりくるれば百あまり五十の者はかゝる事
なしいのちへの人天地仲尼を生せどもんば為
世界乃ゆくさきんといへりしもしかるに世の
学問をよくせんとて書をつゞり真事を述べ道義を
説へくて来簡をさとしふかきあれまことをふ
とくに世乃大なる幸なるべしくよまんを

其ほかとかまくらん事ども
ぞめくさ〳〵あふ世てぞりてあれをくうとひ男
をおつるまて演せざるべきんやうむらくいとぶ
目のかの乃俗ぬなくしひ文字ふかくなふてさぞう
つと窮明の人もおろくい事学にうとく〳〵窮卿の
嗤進ると自濱とたくひうべさ師まにとそく
うる学の家乃ふまいたつふまあそびを学のこと
安逸てよなくして学問などふ男とくるくめんま
いと遠まれば稼穡乃銀雑ととべてもくさるみを

なくずふ学三まる紙も見行物ととくう類ひと
まねれぐ〳〵あくをれてうう國学ふ穿こうる
事古りもでにくくうくうみくも狂うるめ
こうふまくれどを今は海ふ　聖明乃沸世うり
あくりねまぞ人文やくうやく学ふて聖学ふ世よ
ゆらうふるりなん事ふまもくとの世乃俗と
ちとうんくあかくの文字紙作りく聖乃紙
とうん事ふるふまもちくふなくうべくるぞ況
とふくこくのるく乃世ふ従とでふ明るくうふ

使つまろとや漢字にはたらまろ人いろんてきるべきはず
今又贅言と思ひべうもどきまろ人のろれありてこる
大和ことばにくおくまわろうはしまろおんなことばとい
そのうそ〜はもきるべて悦ん事あわきるくて餐
にくそをうぐひ蠡すくる海とはうぐひくれば
つるるにはまるにて志ろさんの蒸る川のふるさ関の
蒸でてあるさ流とぬりもひなんうまひよ蒸まされ
つもといへどもこるにはのがろにい必まづぬりとはし
蒸ろふゆくよい必ろまろそでむふ好あまぞ

世乃不蒸ふて漢字とろざふ人のるふいさろか
むーきけふ而のことうり我今乃俗後をれうさ
あつあるく八寒とーろづまきく大和俗訓といふ世
の平此まは乃愚なろもなづうろしめ児安
乃いとまれくて麦とうきまへざろ我ときざ
む事をろひ稱ぐふのこうとうぐ材蒸のくうり拙る
まれ男にも意ぜねろ学をいろをうんるとぬ
まぐ世れよ此書ふりぐろぐいふ年ろりるふ
影但なろめろやまとのふうまをろくつくるも猿細

ちう事ハ紙も行くれとちう世ハ世の乃ゑ学ハ人ゑを言う
ゑのちうしハ学ハとなるゝん学ハ人ハうまねまゝ
志ゝうとちゝづもあまゝ世のそゝうをもあるゝうちに
れちうゝべちうふあうゝどちゝくゝ学ハ天地のき
ちゝうをさはゑゝづをゝうふうて人とまれうゝ事
ちゝうゝ物ちう男ゝくいを大ちう地乃第一を等世と
ふとをむちひちゝん事ゝうゝべゝ世ゝてゝく
あさちうゝちうとちうちゝくゝ世の平ハ言ちう
人小男の学ちづハゝ乃めをさゝて民用乃小

猫ちをなちゝるゝゝちうゝ世ハまれ食ちあちを夜を
あゝてうふちをちりゝをやちくまて天地の為ちゝ
ちゝくはいやちう素餐(ソサン)の罪をすゝて地ねうくちうゝ
とをなりぬゝあゝ紙れ人乃銭(ゼニ)をうまちひゝうゝ
ゝゝ今ちれゝちるゝゝすゝふやちゝちふちう
事ちくゝて世ちれりちの人ハあうれゝちくあうれ
ちちうゝちれゝやうて学ハと同くちうれく
ちちうてなんとうちゝくゝて男のゝうゝれを
ちうちをとうちれゝふつちゝくゝ学とあうゝ結ちる

おろかなるの身い心を用もたどくしくろれたいうるる
ひらげ事をおもまんもうしく後ろて世の中にてはれ
と志紙用ゞくもろろ人をあるてはいて書乃あやまち
おかくしてひらげくしく記すをとうく沒ちたくろて
世をさくしく後たぐ世ろろ小ろうぶ祈ゞつくさかいよ
ものへふなるべし

寶永五年立冬日

益軒貝原篤信書

時年七十有九

大和俗訓卷之一

貝原篤信著

為學上

天地ろ第物乃父母人い第物の靈なりと尚書ゆ聖人
とくさ後へつ。云ことろ天地い第物をうこのゆ招かて
て大父母ゆり、へろて他の氣をうまて生ろく者ゆ
万物ゆすぐれたくさん所ろうゆ人ゆ者ゆ性を
うまをて他乃ろんをれ心とくく第物乃間ゆろくこう系
いと生ろうころれゞ第物の靈といれ、ろ人ゆ万ゆ
靈といんゆ所ゆろなろたまゝ。ぬあろ紙云ろ他ろ万
物をうこ書ひゆ中ゆ人をいつくあゆまこのゆ

事ども獣(ケダモノ)まがよりてとるものをいて第物乃うちにて
をとこ女人をいとく天地の子となりさねて人をも天地を父
とし地を母としておかさりをさて天地の大恩をもつて
有よ者小て地よ活る人をまつ紙いて人乃をとをと天地
よ活る人をまつ乃ぞいうんぞやあるそ人を天地乃第
物をうとそぐて活ふ活めぐこのみをいんとをとは心
をあづまて仁とを仁をもて人のんよ天より生れ付るを
かは生り仁乃理を人をめくを物をあるれむを陰とを
は仁乃陰を主をち英乃ぞ〜てを地のうを活る人乃人
倫をあつく愛(アイ)〜次よ者獣第末をわまをて天
地の人と第物をを〜活ふ活んよまるぐひてを地の活

ぬくこのちを〜を助るる紙いて天地よ活る人をまを乃
とをあれをなるち人乃をとをまを而に〜て仁より仁乃
理をまを〜て仁義とをまり仁義をまを〜て乃徳智仁と
をまを乃性をまを〜て乃常といふ中をまを人をど一年をわ
をて陰陽(イン ヨウ)とをまりを乃まを〜て乃表裏乃四付とをまを
め〜仁をを乃常をまを〜て乃を物乃地乃乃常乃人よ生れ付
る理をれを乃五性(サイ)といふ性とは人乃人乃生れ付る理を
いふ性乃性をいは〜へ今天下の人をまをいや〜乃をを
をまを乃ぞ〜て乃地より生れ付る第世を
相ふる事をを乃ぞ乃常といふ常とは乃ぞ〜
中につをを仁をあを〜れをの人乃より是をを〜乃陰を

うちに義を宜しくさとり行なふ者とも相愛
もろ〳〵云ハいうやまふ。法くしるしてあるごとくなり
云。智とあるこゝろふかくこゝろ心乃理よりおこるなり仁義
礼も智なけれバ行ふもとゞまる。義礼智ともこゝろ
仁ゝりおて仁をさとるなり理ハいまゝとなり仁義
礼智のふ信ゝ〳〵ていつゝりなるをさとる。ほとんど
仁義礼智ハあゝとも九しく常の性よりこゝろ人
倫ハ対〳〵てなるけ物ゝくあつく行ふを人乃道とす人
倫とハ君臣父子夫婦長幼朋友乃五りを五倫と
つゝ又五ゝとも云天下に人ゝ〳〵をそなへ
ゝりてゞ此五品乃ゝ人ハいでゞ五倫よりほゝ乃ハ

臣をあつまりて臣ハ君よりあるべ〳〵なれハ
つゝ〳〵子を親よ孝をつくし夫ハ妻よ礼義
あり婦ハ夫をうやまひて和順なるべ〳〵長者ハ幼
をめぐみ幼ハ長者をうやまふ〳〵完才も長幼
の間よあり朋友ハ信ひよりほゝとなるべ〳〵
義裏をもつ人〳〵ハ五倫のうちハ仁義礼智信乃五ゝ
性よりこゝろいて人倫よりまゝ〳〵ゝ行ひおこなふ
ゝりこゝ性乃ゝ人ハ道ふあるゝ
人となることをもて他を行ふ大父母ととも兄弟
親をうゝゝがゝくさいまりなるさ天地の恩をとるゝ
天地乃恩ゝこゝろ生ゝ生ゝ生ゝ

まうで天地のやーるひとうろう事たとへば人乃身は
父母こりむまれて恩をもて父母のやーるひよりてひ
とくるうげでとーあるを恩をしらくは世をよむまうりうく
ほひよ天地につうえまりいうふをーしく天地の恩を
むうひん事をうつべーは天地よりうう孝るり人
うう志をつひよ見をんよりをてるるべうど天地
よりうう人をうう乃共別にあうるど天地の恩んよりうふと
ひうく世とうと天地の恩んるまうぶふとハ家ふ天地ーう
まれ付うう仁義乃徳をうしるうどーて天地のまう
ぶ乃人倫をあつくほうれうをうやまうをいふ見則
人の行ふるを而にて人の道とうる而

さうに世ふよあうべうどま人ハ天地乃恩ぐうに
ーうてむまれて天地のひをうをてんとーて天地の恩ふ
をみ天地乃やーるひをうけうりかくのごとく拾りる
き大恩をうあたまどを凡人ハううど百倍(イハヒル)百倍ハ
見に用ひてううざうるり為ふて天地よりうう人まう
ぶーて人欲よううぐひ天理よううぐひざうハ天地乃
大恩をかうありうて天地よりうむくれ天地のまとうて
大ふ孝なり人のまとーてを親ををもせどーて他人
をあーー父母よりうむをてて不孝を行ふがごとーふ孝ふ
まうをうを天地乃間よりうぐーいうんやて他のま
とーてを他よりうむをふ孝るるや事にうるざうひ

ものといへどもこれを天地よりうじあるものとぞなすべしてを
地をたうとびつゝしまるべきまことの道をもとでよいへれど
ものをくるくるくるくるよりはもんくあるよりほかにまんくあるよりほかにまんくあるよりほかにま

事も人の微分すくなりてあるときは大なる世人なる
者の所をもつてどんなたるべうもどと
天地乃中に第物あり方物乃四人だりたりとき物
なるかるがゆへに第物乃靈とつを靈るゆへにんふ
ふ性あり身に五偏あり目ふ五感をもつたりふ体
をおびえ耳に五音をもつたりふ鼻ふ臭をもつたる
きぐものにはあまるこれ事一もなる人となりてはく
たうとなる身とはなるたるを変化してふ乃ふ大なるふ
事をはなる世もつたる人とまれるもとなるどを獣に
ちうくもつてをつをしは世をもつて人とまれるる身とい
づるふるに事くるやうるども

新子撰ゑ人身はぐるうをつ事をもつるれとの人
つ第物にとぐれるくる人と四くまれるるは獣り事の
動りるれど人身得ぐるうといるり人るる者りふで
びはもるはまれだたるひはるびるこるりて人乃ふを
ふるどともかうひてふ人とむまれてんはをるのびべ
き事もるるんは身飛人とるる事とはにれだるをを
学びは身とくれるるわ人とたりておるべしむる
くは世をるとるぐるどの人とまれ乃ふとるぐ変るくは
世をるるるど人とまれるるるひるるべりむべるる
第物の内人とまるる事は悪るるいんとるれだを獣宮
ふるるるにるくまるぐふのとを物るぐりなる人乃物と

鳥獣虫魚乃類ハ一ツとして生ることなく死ることなく
ただ人ハ学問なすべきことを生ることの事
あつしめく生ることなく人乃身をもて学問乃心なく
まことをもてうつさんとする人乃身をもて人と生れうるゆ
身を知ることを学ばずして天地のたふとむべき人の道
をもつぱらとして物ごとに人と生まれぬることのこゝろを
ものいとなむ一生をむなしくすごすハ鳥と同じく
いとゝ身をもつて生ることをもつて
同じくらるゝなれハ
人と生まるゝハ学問をもつて
さ人乃身をもつて事をなすべきことを

人と生れて人のなすべきことをもつてせずして世をとるゝん
まうまつべしとハ常と愚とのこゝをもつて終るまで
ことをなすべきなり
おゝよそ人となる者ハ人のなすべきことをもつてすべきなり
人のなすべきことをもつて人の義をもつてひとへに
なすを学ばずして人となるべきなれば聖人ハ人のむね
乃道をもつぱらにして人のなすべきことを行ふ
阿代ハのこゝ要路ハ四書五経乃教えなり。五世の教
をもつて世ぬゝ事ハ月の天をめぐりまつぐ
ハ人ハ人とハいへども天地ハ
天下の道理をもつて人ハ人を。
白日ハ天地をてらすハ

必ずしも聖人の教を学ばざるべからずや。もろもろの人となる者、人倫の道をもて性よりまれ付くままなれども、道を志さずして食ふあさ衣をあつらふ者、居ずまひやとくもろもろまでもろもろ聖人の教を学ばざれば、人乃道をもくして有きごろのよちもろもろ。ゆくゆくの人となれもろもろ。第一乃霊ともろもろ賢君ならんて万民の師となるべき聖人也。とうまとも聖人となるものは必ず道を学ばざるべからず。人倫の道を学ばざるべからざれば也。愚なるもろもろ人となれども学びざれば生まれざると同じ。まるんでも道をもろもろぶれば学びざると同じ。たとともろもろ

人となれども学ばざれば人乃道をもろもろ人となる。生まれもろもろひる。聖人とむまれて学びざれば生まれざると同じ。学ばざると同じ。人乃道をもろもろんぶたる也。もろもろ学びやもろもろ行ひんぶたる也。まるんでもろもろ学びざると同じ。学ばざるに同じ。かよ人とむまれて学ばざれば必ずもろもろ学ぶ者は必ずもろもろもろもろんぶたる。道をもろもろ必行ひざんぶあるべからざる道。行ひざるべからざるもろもろ。行ひざるもろもろ。行ひざるもろもろ。人の教を学ばざる也。ともろもろんと思ふべき聖人の教を学ばざる也。聖人の教と学ばざるもろもろ。生活よ行ふべき道ともろもろ学ぶ乃ともろ也。もろふ

志なく師傅あるく学術乃もとづちうくべし。生精力と見ひ
師とも学んでもちうるしるべ。ねよろを学ばずんとおもうべ。
学より道よふく志をたてく。師よもとづひ良友よ
まづいろ。学術をあつぶ。学術しらいま
るびやうのもとづ。学乃もとづあまれべ。生活と
やてもろをもとづ。一くびまひぬまでようさろよ
うくべし。ねよ先学術をもとうぬべ。
学問のろを極く廣大なる妙にして深奥なるもの
をもとめる。孝弟忠信乃日用常行よあり。あよいう
なる愚なる者もしろをまるびやとく。ものやとく行
やとく。高きふてあくく異なる道よいたるべ

古の聖人もこれ師よもとづひて学ひ行ふ。況今時乃凡
人学ばずして道をもとうべ。師なくしてふ。
ひるしるくもとうるべ。況人のろい即天地のろ
まく極りて大なるとや。学ばんでもさるべやうあるべ
ろ。学ばずして学問道をもとうるいまこれ
学問と先志をもとうるいて。志とんみゆくあく
ろを知り行ふひて。ろよるとんとふんたひよ
ところなく舎こやまざるべ。志をもとうとも。志たく
ばれば学ぶまず。然せずして。あよ古人も志ある者こそ
学はあるべといひ。又志をもとうる学乃事也といへり。
ろ人ばもいる者乃ものよ志。ろゆく者の宥りよ

志をとぐることゝ。ゆ。後つの事共をたくむべし。志を
まもる。学問の本なり。志をこゝろよハ勇猛なるべし。柔
弱にしてこゝをこゝろべし。ぞこゝまでもこゝろ
てはこゝゆうをぞこゝをおこるよぞちなこゝ志のたくへで飢く
食飯水や湯とて湯水をおこゝがくこゝるべし。こゝづこゝ
こゝ飯こゝとこゝこゝをこゝこゝれで。志こゝこゝ思はこゝこゝよんこゝを
一こゝこゝふこゝをべし。和物こゝよんこゝをこゝうぞこゝふべこゝこゝで。和紙
和こゝるこゝで志をこゝこゝこゝと尚書ふもいへこゝで。こゝこゝこゝハ耳目
口鼻こゝこゝもむ不乃和欲こゝ和こゝこゝこゝこゝこゝこゝ感こゝ蓋
の雑藝こゝ一向こゝこゝ紀こゝこゝたこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ数ハ皆
こゝ物こゝこゝこゝてあこゝこゝぬ也。かくこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ

まへゆうんとかりひさぐ月こゝかゆくにそう日登衆わたし
ぬへ塔うんかこそろこんこ舎こつねよやまこ芒たづまこゆく
志こうりゆうくのごとくるんぞたるかあろうざとあよ
とぐうどとつするーころよ志をも示くのめくべー
九学をとろるかい森をうくろう基をころくこ禁戒をやろう
ぞうこ基とハ家とつくうち去墓たうこ学ぬもうこ人ハ縑をい
基ととこ縑とハろうぞうる亜我身よかてくぞこ人よこうぶ
らぞーてんをむるーくしこ人よぬるるとこのこ我ゞ身と
身のまこぞ師友とうやまこひこうぞ身かヰカうこてもうる紀ゞ
めくーこそーえとうくこうこ人のいうあを拾びこそでかこれう
身ものこうぞうぬゞめくにうくこうぞ知ゞを生ぞうてぞこすでる

うく行ゞ身ゞるゞもしこまぞ行ハざうゞめくうひこ人とかうぞ
たて我ゞ身とせむうる紀ゞうりくぞ紀とこぞ学ぬもつくめ
森とうくうる基ゞうりゞ身こ人でゞ家をこ作うかこ基とこう
ゞめーしは基あきこ見こにこ君こう紀こてこうぞ過をこうり
て知明かたうこ君日こかこ志ぞ学乃進むきこハこうり
なーこ禁戒を守うべーこ禁戒とハいまーめて行ハざうと
云こ学ぬもうこ人こうきまづ紀乃宮紀禁戒ととこ紀ハかこう
とうこむこほこうとハうゞ身かゞ自滅して人よるうりくぞら
ざうる紀云こいまぞこうざうる紀こでかこうきりうここよう
ぞうかとうーこ決こうこ我ゞ知紀身ひて人よこハぞこ人
乃いうあを身ひぞ身とこうあぞこて人をこむこめくのごと

るれども悪日にはもどり初学の人は先は禁戒をもちいるべし
善をなすべしとうれども学んでも益なきことをしらざる
ばかりなく害あり。書紙をうち学問をもとむる人の第一
人の性をば善なれども人は氣質と人欲とに蔽まれ付紙
善悪失なる氣質とは生まれ付紙。人欲とは人の身に耳
目口鼻よりおこる。うつくしきを好むるとる紙。生まれ付なり
まれども人欲は引つれやすくして人の者は古へ
乃ひとのをしえと学んで人となるべきを本とし氣質
のあしきをせをなおす人欲乃場をたちくず性の善ふ人
なるべし。学問のもとは人の性をしえと立

て天下乃人は学まちしめるふ。人の性は善なる紙学ん
で善ふ人になるあまたの也
人皆孝弟あり。先王をもとめ幼ちをもとめしかり
人皆仁心あり。孺子の井ふおちん人
皆義理あり。節よあらんとしてハ
をろかなるを下郷も食紙。食をもけち
らしくあるふまでくつどど。貧人の性乃善なる俗なり
聖人乃善と天下の人乃生まれ付なる事をもとめ先
知るをもとめんとなるどもきつざるをハをしえても
なりがたし。人よりとより生まれ付なる善人ある紙
とりてみちびきひろめさせんとなり。

天下乃人々ゝ性質善なるもの多くそのうまれ付のまゝ善成り自へとみちびき給へるなり故に我行ふまゝ善人ぞと人々斧の柄をとるふ我が手に持る斧の柄をいとく新しく作らんとせるに斧乃柄よりなるべき木乃枝よりてなるべくぶれざる木乃長短ありをたがへど用ゆるさまにたるまゝ出たるそこを変ずるもの作らんとせるに別の柄をすげ新しく斧と新しく斧と作らんとせるに別の柄をすげ新しくとと。聖人のをしえいたるまゝ行ふ人をまれ行ふ人をかとりて出でゝ善をそだて善人をたてゝ別乃道をもちまゝゝ善人よりゆるはあるべき。

天下の人々行ふべきは山乃ごとくいざるひゝらびたる行ふて無氣あるゝ人数多。庵もやまゝと。西戒蘭蕃学問よりもとゝ道をゝ作るべきゝ。別儒乃学あり。紀伊の学あり。紀藩の学あり。訓詁の学とハ聖人の書乃文義をくわしくとゝまるを訓詁乃学とハ廣く古今の書籍ゝ。故事事迹を学ぶを云。紀藩乃学とハ待人を作るを学ぶを云。儒者乃学ハ天地人乃ゝ乃ふ通じて。ものをおさめ人をおさむるを知るを学問を云。儒者乃学ハ聖人乃学ハ聖人乃書六経を乃文義ハ要ずゝくも義理をとゝまるべ

用ひゝるべしゝんや紀綱倫理乃学はいよゝく乃ゝは
儒者乃学とをゝべゝるべし。儒者の学ふかき一なるべし訓詁
紀綱倫理のわゝを暗ゝを用ふゝひてゝゝしかるゝ小
説乃学まわりぬを経史文章乃学をてのまゝどたゞ
もろゝくの雑細乃事ゝ。みやゝを文なゝど紙ゝろ世ゝ
書紙めでゝゝ多くゝん打げゝ。学ゝとゝゝ学也。小
説乃学ゝ訓詁倫理ゝ紀綱などゝふゝゝべゝ学術技能
打をゝゝよゝゝゝゝゝど。ゝゝれは来世よゝゝみは学まわり学
術乃最下品なり

或人の曰儒者乃学ハ品人乃ゝ紙ゝゝゝゝ可ゝゝん天地
乃乃ゝをゝゝふ乃ゝゝべゝゝゝゝゝ

つぎ〳〵にてこゝ仕たるうへ
をまなびべき中よりうゑ中を学べきべしこゝ下を学べ
功をなさんとて又心を小にしてひきくひくくとつべし人はうり
くだりの日用学行のひきくなるをもつべし。
心大なるべきおごりてはたゝしこゝろなく純行をたにしるべきこと
きはめて人はたゝぶりてく謙遜を失ふ
学問の法は知行の二を要とすべしこゝを絶
知力行とは我知とは知る事をきはめしるなり力行とは
行をつとめしる也なを知る事ゆるなくべきまで
しりつまでゆくべき人は目をくやうもれどゆく
ゆくべきをもつてゆきづまり行はつまるとゆく

たゝべきれば知りても用をゆくべき人は目ゆきうなりゆく
いへども見たゝべきれはゆく事かなはざるゆめ〳〵知と行ち
とは目小にして実をもくゆくべきごとし。目くゝきれば明
なるべきをゆくべきは実をもくゆくべきれば明
とゝをかをなるべきれば乃ち知をゆきべきごとし知行
先とし行ひをはとゝを第のゆきべきれば行ひをゆ
かをおはをいへば知ることを先とゝをもくべきれば
知ることは人はゆくべきれば用をゆ。なを輔言純いへば行ひを
知をしるとは知ることは行ひをゆ
命のゆく翼のごとく車の両輪のごとくなるべし。
進ひをしるとは知まるまは即必ゆ

行ふを云。知と行ともおのおのあるあまどさ紀をかく
まどに一度よりたまるうちてなくとをうべ進むといふ。
たゆるばりにて行ふべうふるべひとしむよりうをと
知行乃二ツ工夫をこまうふうてだるあり中庸に
惜く学ばず審か問情んでらひぬるふ論へ篤く行ふ。
ところをたうてく行ふの工夫ありて学問乃ちなり
惜く学ばず乃ちをたうるとをくとの二をはとむ程度乃
書紙うとへよ道をうてを今を考へて乃理をおろ
なり人倫乃ちをのをく程度乃書ふをうくうをん
人を自ふかを紙ちうのがをくちうべ。てをト乃
乃理ををいまりをーをたうをまを行ふべを

をたをとをうでありやまりをーを乃理をうが一ツよをる
ちうを用ふ第乃よふあるなるがをまがちう一心の
道理ををうあ治よハ第事につをてひ治をを乃理を
りをあてをがん弟に自ひをををーを乃をく学ぶく
惜く学ぶの乃ををまれど。書紙をもむかと益あるハを。
古人を人乃知恵をまに乃。書ふをくをなーあを
いへををされどう文字紙のをこれをとて義理をおもをうハ
惜く学ぶよハあるを
審か問とハをでふ学べをまれをうんをうハをを事
を問ふ学ぶにちづをてをををうふ問をくを乃理
紙乃ちうふーをうをひををくを

惰んとおもふとはもとゞくよ学び問ふる事のうるづくるを
えんをとづうめーばたくもんでおひてよくゞそんをとべ。
まるびぬひくもくめてんぢれどゞうぢ物よをうぶ。
ゆよりうぢんよ乃程をとりあて其程を舎ひとべーを
うく思案ーて道程よ面どうなり。惰んてもふよ行う
ざれどゞ乃程よ面ーゞうて。学問を自得をうふ。
自得とい惰んてうくひくんゆよ乃程紙ぢてん
ちうくうぢ絶めーたうる処

明よ箱ふとはもでふ惰んうくを乗うく程を善悪まどう
ーてきまたうゞおくをうをうふを是非をうひてゞ善
悪をうをうを云ふよ乃程を皆知の工夫にうくゞ乃程を

あうをうふをうる也
学まく行をふとはもでふまるびをひをひうをまんてゞを
乃程をうをうゞ即書勇にをたまうを乃程をあつく
行をふゞーゞ行をふるあつうをうざしゞ道をうをがーゞ。
学まく行をふ乃乃程をうをうゞを為めーをいつうりをく。
行(ヲコナヒ)をたーしーをてあやまちをくをくを人乃まの
うをゞを多まれどゞ(コヽバ)をとを行(タヒ)をこれ二よいゞでゞおよをうい海
をうふーゞ行をたくーめゞ勇あをまうゞんのをうる処
乃用七あり七情とを云ふ。喜(キヽ)怒(イカリ)哀(アイ)楽(ラク)愛(アイ)欲(ヨク)也人乃身
をうゞをいゞ七をふをうをうる色をたくーをてるをふるをく
てる程をうをふゞーゞ中につをて七情乃内いうりゆ

慾との二ツなり。ぐん(群)書(しょ)ぶ(部)とうこまい人をそこなふ
ものなり。ものよりをもしやめ慾をふうぐこころく
ことはしなくあるべき処乃こざこにうるし。又学ふ
うけりくるぐ者もり狂ることあらばをのまぐ者
をもそく法さ(作)ふ者ふ者ふ者に(毒)あらえ
ものくねむべしこころ分に(挑)ぎ改むるふそぐる
るこころ。又人よ(野)ふ行るふよ人ものれなるこぐいさう
変あらぐ人をもあどしてこうぐ勇をう人ものこと
ぐし。皆あいを行ふ乃也学び問てよあらぐれば
乃ものなるべ思ひ(鞭)ふるよりぐまぐ乃ものぐ
ふよ行ぐし。学くふ行ふてもし変

ふ(ず)乃ものを中庸ふるふ不学ふ工夫なり。
行ふもは五のもの一をけぐ学ふあらどといへも
書ふ我身をうこと。又人のいさあをさして我ら不言
ものと恥乃やまちもふ行ふこと学ふうけりあやさ
ちふあらうむべし。ふありて忠直にしてこころぐ己と
ものを求めて交ることくいさあをさくおし人へ
をりうむべし。学問を我身のあ我あらうあて。
ものふうけりのもれぐ我を知りとし。我をうと
ものぐ学ばものを言ふ人ものあらどなんそうふ言をはらくさうんや。
人(勇)(壮)(自)まりとものべりうどと。変人ものうぐ学問と

こゝにて自世とゝ孩つゞ今乃凡まいうゞうあやま
ちをみうゞ色こさ
凡我知のほい又言五倫乃乃をとゝ我ゆゝ家
をとゝみを色て民をおゝさむゝ物ふゝゝゝべ。次ゝ第事
万物乃ゝゝ物をもゝりゝさゝむべ。天地の間ふゝゝゝゆ
ゝ第事万物ゝ色る我ゝんのゝ間れるゝゝゝ物を
ゝゝゝゝんゝあゝゝゝゞゝゝゞゝゝゝゝ

守護職の思いをんや末世乃凡夫乃知る所乃
かぎりハ甚だ乃ちがひといつべし。尚書ハ
ほうれんでこそ書給うしたなひ。ひそ乃ほうれん其儀を
学ぶといへども。ひとり乃ちがひにて。
ひとの事を乃ちがひ乃事を改め学ぶうつる乃
あらんどこの日こにて法華乃ふるまひ乃ごとひ
聖人と同じく居る乃知るべし。
ほうれんと書給うこと学問乃ちがひ
小乃ちがひ。初学乃邪智をまもりてほうりて学ぶ。
ちがひ給ふ乃ハ天下の悪徳乃ほど古人乃いましめ乃ちがひ
なり学問乃ちがひ乃第一ほうれんをいましめべし。文盲

乃ちがひ人乃ことばよ学問乃ほうれんなく人乃ハ
乃ちがひ害ありといつべし。世上乃人ある給へて。
乃ちがひ乃ほうれんを上其人乃ちがひ学問乃ほうれん
乃ちがひ乃ほうれんを学ぶべし。乃ちがひ乃ほうれん
実乃ちがひ乃ほうれんなんぞ益なきうんや。害乃ちがひ
乃ちがひ乃ほうれんを学ぶべし。
乃ちがひ乃ほうれんを学ぶも。一字乃ちがひ乃ほうれんを
うるうるとも世乃ちがひ乃ほうれんを学ぶべし。
乃ちがひ乃ほうれんを学ぶ人ハ一字乃ちがひ乃ほうれん
ことうるうるとも乃ちがひ乃ほうれんを学ぶべし。
今日一字乃ちがひ乃ほうれん

をべ〜ぱをつくして肉をうん肉成ちくして骨をうん
骨をはくしてく髓をうる人〜ぷれ骨をさいもろ学問い
んあるべくぷろさ人いぷ〜うべるどぷくるべく新よちべ〜
孔子曰、古之学者為己、今之学者為人。為己といはゞ
身を修めんためよちろ実学也為人とは人よろまんま
がためかちろ名利の学也学問乃おここはをのゞ身を
おさめんさめるべ人乃知と不知とかくるべくるべた
と人ぢ食をとうたべぷ飢をやめ身を養うんさめかちろ
ゞごとく〜ぷるゞ稽よこちなんるものこちひてぷるふ
るゞ食〜ぷる人よろまんと新ふんる〜学問いちゞ
我身をおさめんさめるべ〜ぷ御人よちるまんなよ

ちべるべ〜ぷ又聖人乃孔子曰、女為君子儒、無為小人
儒とこの経へるぷ小人儒と只おのゞ身をおさ
めんさめよ学ゞるべ〜ぷ実学也。小人儒と只人よちろ
まんさめにさるべ〜ぷ名利をねがふんちろて我
身をおさめるよ志ぷ〜偽学也ぷろをかて者よ先人を
見ていちよちろみてく上達〜ぷ小人乃人を見ていち
よちろ〜てく下達ぷ〜ぷ同〜を力を用ひて学問せゞ。
志子儒とは人〜ぷ小人儒とは人〜ぷどぷちめまるん
で小人儒とならいは只新〜学者ぷ〜ぷ己乃為よ
ちろ志をとる〜ぷ。是学問ちろ人の第一よんはをこさ
事ちるぷ〜ぷちろ〜ざ〜ぷ悟く事をとうと学問〜ぷ養

ちくしてかつ門てく宮あり。
書紙よ四ぐらゞ多よ受用とう事をきる一よ志とへし。
受用とい世よろせるる聖人乃教と。我身にう事
用ひくまとり行るい用ひ方ろ紙ろ。書を
こと義理をさてもまひ方ふうを用ひどして行ふ
ざしだ行乃養ときつゝ書ゆ。大学紙しんで
如悪臭ハ好色とあるる紙ろくくえ。我ゞんよてれを
うを用ひくまよ悪をさらてゆ。悪臭乃ゆくる紙
ぬむゆぬ多乃ごくすべし。論語とうんで父母よ人
てうくをゆ紙つくし。考よにうえて紙を身とゆゞぬ
とあるる紙ろくくいをゞとくゆ。我身の力

も財の力も行ゆまゞこと考をにくとべし。にうて
系身とゞくとれよせゞして。ゆるら系
よ悪をにくとゞし。自分も皆ゆくのゞとくをべし。にを
書紙ろんて受用をとこと。ゞ紙多くうんでも
受用せゞゞ。ゆ軍乃学といいて。耳にをて。ゆくに
よ云ゆゆまゞゞにくゆ。ゆよ悪ゆゆ身よ行ふゆゆ。ゆ身
の学ゆゆ。
初学乃人書紙よむよゆ。ゆん宮書紙熟読し。又経を
ゆくゆむべし。経をよ代の聖人乃教也。文字乃
義理乃宗とをて。文字乃ゆゞめ義理のをゆえれな
なり。四書ハ孔門のをゆえるゆ。ゆをよむハゆれあゆ

聖賢の書をさくげめ〜べし。文義やうやく通ぜば、
四書乃ち大学中庸乃ち論語孟子を読べし。次に周程張朱四子の書乃ち五経を読べし。中に
ほとさて程朱の出たるくとゝむべし。はじめ小学を先とし
男とおさむる大法をたゝるべし。人倫乃ち略備まり。
そのくゝんでこゝを義をおもひそろべし。又歴代の史
備史紀朱子通鑑綱目乃ち五経を読べし。此ものを古
今の通どう学問乃ち備まり。経伝乃ち歴代の史よ通ぜば。
天下古とのの事理ぬるなくば次とつとするなるべし。
聖人乃ち書乃ち経と云。経と云ふ書世の
常道なり。賢人乃ち伝乃ち伝と云ふ。伝と云ふ人のをしへ述

伝代よ伝ふる也。四書又経ハ経なり。周程張朱
乃ち伝なり。歴代乃ち伝なり。史と云。
紀録のまゝ也。子ハ荀子揚子淮南子説苑文中子
乃ち諸子乃ち伝なり。此ハ程朱の書のごとくに程朱
なるハあるべき。ゆゑに経書乃ち義理を明らかにあり。
乃ち諸子乃ち文章の書なり。此又義理を
発明せり。史経史子集の四部ハ皆ハ程朱ほとあまたの
皆学問の本なり。用あるゆゑなり。ゆゑに程朱
学をもつて一生をたゝむべし。次に史学也もを
益大なり。次に諸子諸集をたゝるべし。朱子綱目
好書也。古代の治乱盛衰乃ち事迹をたゝるもとあるべ。

業理乃学ふも亦大よ助あり。猶小国土をおさむる人の用ゐるる所なり。又軍乃勝敗の乃紀記しるく兵術を学ふ人ゝも甚益ありと。古来勇武名ある人多し。猶已前多し。はとめて教遍乃ふ乃ゝ。漢よ紀世乃大興とゝべし。ものか和漢乃記録ちうゝふまつりて乃乃人しるべし。又いとあゝば諸子百家書籍乃ゝく紀伝を教的し業理乃類をひろむべし。ちゝしどももゝ情賢をはとめく雑学ふうつり志をうしなふべゝなど。学問を惰くして又絶よとゝ惰まれで業理詳ゝて俗ゝとゝとゝまるゝ。絶られを業理精ゝくゝ乃ゝ問ゝるゝとゝまるゝ惰く学ぶ

よゝとゝ乃ゝく。又中ほゝ乃ほゝとめて学ふ人ゝ絶ふゝ乃ゝ古人も惰くして雑ちゝ絶やうにしてくゝりてゝとゝ乃ゝをとゝいへゝ。おゝて書籍ゝ学問とゝゝ乃ゝをちゝんがたゝ乃也乃ゝをちゝざゝ仏ゝ廣く古今の事をとゝ法文章をとゝく作りゝゝも要用ゝ乃ゝ。学問乃ゝ年ゝとゝふゝ乃ゝ。学問乃ゝ年ゝとゝふゝ乃ゝ。又四書五経ふ乃文義よ為ゝ。古今の書籍ひろくゝとゝ。一生義理をちゝゝゝ人多ゝ。乃ゝよ志ゝ乃ゝけまゝ乃ゝ。又志ありゝゝもまゝ乃ゝびゝゝうゝあゝゝれゝ一生乃ゝをちゝゝ。或弱乃ゝゝゝ乃ゝゝもゝゝゝゝと知をひゝくゝゝを勧しべし。心学よ志をゝ人情彰乃工夫を用ゐゝ日ふ彰ふゝを賜ゝのゝゝゝ乃ゝゝ。今日ゝゝゝゝゝゝ乃ゝ

うたうたうたう

をとむよはろゆうだう学のとて世ざろう宮とをつざうかぞ。
さんどを文字刻法よりてろう西至て学理紙自めせざろう
表ろ乃学ふあろうど
学問を勧る意とひろくろろるれ。廣く学ますて義理は
歴で。我人よ勧る意のをもづろうひろ紙筆へ弱冊を
きろのこふう手勧ぬ生ぐて男西ざろうぐど。人の手留と
おろうをぐろ。人の学をとこれかち西銭へ信ろうく年
たろ。ろう人。或ハ手学乃名あろう人もこう信と年こ手
とふかろうべうろと。呂人へよるろうろるて暮とふべ知来
乃ますとく勧をまんろるる
凡幼ちはとあまるぶよひまる紙ら。むざ。いみ。をの

高王を聖人なりしぞふ。狂ず漢をれ。そまの。はそんや今
乃凡人をやつろう。に嫁くとて。ひまく。時日とうい
やとべうろど。ぞ法ぞ乃ごとく。阿義を流るべごとく
ろんで。まうろうとたみんで時をうしるみるろうど。
人の世よあるハ老幼乃時とやまひとろ時ぞ学ばど。
又四民とろふとろ気のことろざきくてりの学ぶ
ひまハとくるる。其とくるを倍をれ。まだ。おこうる
てむろ。く色或ハ衣食のまをたて時を費。一
まをはうとくおろうん事。いとおろうろりといふど。
今年乃今日ふてびはぐろ。ぞこ事をふひてかりよる
ろうろふ時をろうるべうどど。一生のるひとと男西べ

さきまでもり。古人も書ノ中ノ
ヲ考ヘよい乃びゴ〜といへ
書ノ中ノ考ヘさ人ノ考ヘよと
いへるもの。農人商人のほとりていとゐを
朝夕用をゐるあさ考ヘ必人ノすぐれたる家
とこて衣食ともに〜ゆたかなるべき。古人も人生ハほとりあるよりの。
ほとんどもまぐ〜ゆ則まぐ〜ゆ
くはとゐれどこを国家必行さまゐ。学問をくゆ
ともまぐ必後人ノよとぐきてくこちをとくゆ学問乃ゆ皆
ちゆ。学をゆ行ゆて〜ゆ〜くほとゐまぐ成就せざゆ
ゆ。ゆゆし人乃貧ハいとゐ多ハいゆんとゐれど。

夫子乃学問をほとゐ。国家乃政を行ゆ。父母ゐ考ヘよ仕
法義をさしゐ。農乃田畑作ゆ。商人のひさこ。百工乃
家物を作ゆ。婦女の布帛を織りあゆを当いとゐを男
てゆ〜出ゆ。ゆゆ〜人のむかゐんでゆ〜むべきゆ。
いとゐよゆ〜ゆいなゆ。ゆよを行ゆむべきゆ。
多ゆ。古僧乃ゆ聖人ハ戸籍を貴ばゆて。ゆ法を学
ふとゐへゆ。学を行ゆ。ゆよ
まゆ。ゆけまば必ず知ゆ。ゆ
いとゐを行ゆ。まぐれば。考ヘよい乃ゐを。ゆ家をゆ
乃事あゆ。ゆ。農工商ゆ。ゆ家業を失ひて貧窮
飢寒ゆ。ゆまゐ。ゆ必粗学ゆ〜ゆ。

くとゝハ必職工なり。よく行つゝ為てこの為てこゝもいとゝ為を
行まざれば必ずしてこゝ。是いとゝ為てこゝ人生の為ハ
知むべきこゝなり。就中手ほのの所を考をとくなくいとゝま
多し。精力をつくし思慮をつくして学んこゝ
事。為をおつるまでこゝとゝ忘れず。はとゝをつとめまるべきこゝ
功多し。れよ書をとゝむまいふ年の氣力をつくいとゝま
あるべきようくをとゝむまきば大なるをみて益ありこゝ年業ハ為
ゝこゝ為づけとあるくなりていとゝ為とくなく為ハやうく
よくなるふゝつゝひて。をゝ学ゝをとゝつゝぬまば力をとゝく
勇ひてむゝとゝれやとゝく学ゝとゝれゝを功をとゝれ。年ふ改
人をゝれをとゝんをて。ゝ紀何侯をあゝと学ゝをゝを

むゝ。歳よ一生ゝ貴とゝるべゝ。閑ゝ待ゝ日。盛年ハ
不重来。一日難再晨及何當勉勵業月不待人。又
古侍ふ。少壮不努力。老大徒傷悲といへるゝ。ゝ時
見をとゝく考へ行ゝ為ゝこゝ事をとゝひて。時日とゝ行ゝと
てをとゝむべゝ。ゝくをとゝむまゝをとゝ学ゝ乃郷をゝゝば
ざれゝ。生益ゝをまふ法をとゝひんを用ひゝる〜ゝをく
ゝゝ道をとゝゝ。ゝをゝゝをとゝゝ
凡君子の学ゝ為ゝ知仁勇の三徳をおとゝ。五倫をあゝく
とゝ為ゝとゝ。知仁勇ハ五倫ハ道徳行ふんの徳ゝ。
知ハ五倫ハ道をとゝり仁ハ五倫の為をまたゝ
ゝ。勇ハをとゝあゝくとゝ。法とゝ行ふゝ

も勇をんてくはとむ。孔子乃学問をとりふのそ人法ぬを
もちゐ三酒をり。初をふ学ぶとをとりは文倫也。こ酒とり
文学とハ好同じ。文学ハむまれ出つきをる性をりこと酒い
学問をもちゐんはとり。文学を法ぐめていへも
孔子曰。学而不厭。圖指而止。人と生れてこい人乃をとをり。
しかをとよくおさめて。孝子となる事を法とあとをべ。
先人と生れてをりひあをんと迄をつまぞ人となるべき
乃をを学ぶまあおとをるべをつぞ。一身も於のとれを同。
学ぶまやむををつぞ。孔子をを法やむぞ

大和俗訓巻一 終

大和俗訓巻之二

為学下

小学ハ教ハ小子のまなぶ道なり。八歳に
なれば。たゞちに小学に天下の人ハ皆
君師のおしえとうけてまなぶべし。これ小学也。をしえは
父母に孝。兄長とうやまひ君上をたゞ人賓客に敬をる
乃或度数とをる礼飲食とをるべき者ハ弟子をををみ
ずからきいをえとをる礼をあをえ又日用ハ礼樂射御
書数乃六藝のまなびをもあをえ先とをいをけるをさはをり
をを心をやをあひ年長をて大学ハ乃ををまなぶべをりをあを
ず礼小学ハまなび法あをゆるをり

大学とハ十五歳にして成人のまなびを而身を治め人をを
さめる大なる道理の学問なり天下ひろしといへども己と人
と別なるものにあらず己と人をとさむる道をまなびハ
大なる学問なれば大学といふ明德をもつぱらとするハお
のゝ成治する也民とあらたまるハ人ををさむる也至
善とハ極まる所ハ明德をあらはすにとゞまるふ民をあらたまる
ハ明德をあらはすにとゞまるべしとあり扨明德新
民の外に至善ハなしこれ故に右の三綱領
ハ大学の大要なり此三綱領の内にあるユまの條目ハ八條目
なる道理なり格物致知ハ事物
の理をきわめたるにして知を深くする也誠意より以下ハ皆

加行の道なり執中に深く至る所公修身ハうへに身をおさむ
るなり斉家治国平天下ハ人をおさむる也此大学
ハ理を教ゆるなり
大学に格物致知を以道理をもつぱらとする成身をおさめ
人をおさむる法なれども格物とハ事物の理
の理をきわめつくす成知ハ物をきわめて
物つくふかくする也格物の須才ハまづ大学の編の身を
治めるをもつぱらとして次才を以て
く国天下をおさむる理をきわめる也格物也うれども
第一第一格物をつとめ理をきわめ物つくふかの知おれつる
物つくふかくする也致知なり故に格物の知の工まを

元大学ハ孝弟ヲ本トシテ学ブ次ハ孝ニ次ハ信ニ次ハ義ニ次ハ忠ニ次ハ礼ニ次ハ知ニ次ハ仁ニ次ハ恥ニ次ハ勇ニ次ハ節ニ次ハ廉ニ次ハ潔ニ次ハ和ニ次ハ順ニ次ハ慈ニ次ハ愛ニ次ハ敬ニ次ハ誠

のちうと学問して志れる所も皆実用となりぬべし所謂学
問をいはんとならばまづ先聖の意をきはめて後世教育に
あたり弟子を教ふる切なり
学問の要二あり一まづ志ざすはいかんすべきと求めとそこに
志れば行ふべし二ざすべきひがごとをなすべからざるを問ひ
ざるを問ひ学問をすすめるとなりぬべうといふ学問の道を
只知しるこの二あり又第六の書式よんでも道をもとう
どしるべしよ後ざるを問ひ先道を志かけるべきなり
をいま大学をまづ格物致知して事物の理をきはめる
ゲ知をひきはくべし所謂道の義式このこの意をきはめ
公案ありて志れ学問を行ふ先体学道志ゆるべし

ざれば第事此先聖の意をしるべし先聖の体ありざれば学者
の意をきはめて学問をなすべし二は志学
博学ありて経書小通じ義理をよく人も其心術行迹
ありうる信人ありて志れるもわり先道を志ありしてを
まなびよりはざれば行ひ口よりよんでひ問ふんあるべて
ものを理をなすはざれば学者人で実食苦楽なる
学べくつ志れどもこれをのべくハざれバ食よりあく事も
ちく酒よりあるなり先ひ書をよんで行ひあるべき
人ある式うべく人ありこれをいうべひをうもべ書
をよんでを道よ志ゆくバ文字をとれるはもあくなり

めてく学問の道ハ学ぶべきことを学ぶとなり学ぶとハまづ
心志をおこすことなり
朝ハ師よりまなびて夜ハ朝まなびしるすべしとはいへども
ハこれをいとくるしきなれ共ハ一日のうちあやまりとなんぐ人て
あやまちかはべ共を面をくいあらためるあらバ悔
もどして来月ハいまゝめとなすべし是因循より人の学問
同の法なり
いまゝ書ぶみを学ぶ人ハ古人ハ書ぶみを学ぶ人ハ
ゆるすハまことに小才一ちゝ書ぶみをよむ人ハ
ひろく古の書をよみ古ざしたる聖人の教をもつて道
をくいあらためひろめてしひろめのべきを古来歴

代のすをもつてハ今日ハ明日のうんとくべきあり臣こゝとい
ひたるもの多をよみひろめ一をかんがへ二をしるふ生れ
ながらの才あるとも稽古をなすべしハおのゝ天地をもつて古今
天下此変をもつてしりみをぞ書ぶみよりも学人ハ
ひろいなぐ学問ハ学ぶこゝろ分れあやまりとなるこゝろあり
つゝて身をおさめる工夫をもつて学をひろくよみ
古今天下ゆるに通じもつて身のあやまちをなおす
ものどこゝ学ばひるなりどばいなぐ事あり学ばれ学問
まれ志を立身小才のみを才一ちゝ書ぶみよりハ我
身二義あり
学問の道ハ師と学ぶもの師をもつて学ぶべし

乃そ民として民乃とうわまつ所乃君うて仕うまつとい
ひ師をハ君として仕まつれ師ハ天子に
とゆうふ物も必面をば師と考へきりとぞいちり
けり乃理乃天下にある處ハまづ老公と知るすべ人ハ海をれハ
君乃父子兄弟夫婦朋友乃間乃ふみべき乃あるべ
乃外乃道乃ごとく第一之乃ハ孝弟を以て
とするべしこれ孔夫子いはゆる仁乃根乃ものか
りるの聖賢とうりて人乃ふみ乃ある思へも芸ハこの道を
わきまへずまなる良智あるそは乃のうりとぶハ
ちりて日月乃ごとくなるべし乃ちうざれば一日も世を立る事乃
なり君父をそむき孔道をなみ人と人とあらそひ人を殺

しかるの邪法をおこなひ人ハ世を立ることなる
孔夫ハ仁乃を以ちう以乃ものすなり仁乃ハいはゆる聖人
世を出乃ひ教へをなすなり乃理を乃ちてこれを書
あり乃ち天下のすべ人精粗(セイソ)ともに乃理ありて聖賢
の事ふ的ふ備りざるものなり毎年日月の天地中
して万物乃ちうふ的ちるハ孔門乃ものを乃んざる
事なれば乃ちうふ的ちるハ孔をあらざる先
生乃我ら乃ものなりの分ふ乃ひ人倫のまづ乃
第一事なりとあ人民とおさむ乃ものなり人乃職
分を乃ちて天地乃乃ふ乃ものなりでるめ乃ざるべ
人乃乃乃とりあひ人乃職分乃ち天地乃乃ふ乃をむを

又元相皆職分あり天地ハ和をもつて中あるを仏とし
ものひ天ハおのおのひ地ハのをるこれ天地の職分なり第相乃
微細なる物も皆各職分あり雞乃晨と成り犬ハ夜
とちの類ものこれ和よりまれ出るつぎ成つて心ものを以
て和ハ職分と成りあるとも人ハ第相乃重なりて仏を
問ふ第相ハ人ハ人の職分とも成り人ハ人の職分とも成り
おのおのハ人の職分とも成りうとも人を以て人を以る歟
あるものもちろざるべきんや
書とよむ人ハまげて学問のをもむきを学問の
くをもつて学問も知法を一をもつて天地聖人ハ成り
をもつ一路も邪を問へどもて純一なる人ハ聖人の

五とをはひもを問ふみかゝくも聖人の人ハ成るなり
らバ純一なるこゝろ学問ハ成ぬ学問ハ知法も邪
なるて正一心法正一ハ法とバ成るなり義をふと
皆正一なる人ハ人の人のをもとを易なるが
ゆへ五のとをもとをもつて成ぬ事をのをつとめ
バ人ハ成るなり人ハ異列よりゆんをを先後を論じ
ひ物がゆへいとなるなり異列ハ人をざる
を正一を以て人をいとをもつて五をあやまるをもと
ならざるなり
孔子曰幼成ハ天性習慣ハ自然とハ幼少より習ひて成
純一なるハ天性なるものをくなり人ひと

くるしむことあるハ人もあさましくあるべし
て自然とよくなることなり如何ぞとなれば性よりいでる
ものなれば習ひ久しくなるべきなり極まるべきなり事に善悪
とをえらびたしなむべきなり初めは生れ付たる自然
乃わるき心をもつとも善ひとたびつくりあり人の悪を
もとなしまれ付くるものにしたがひ悪人よりたしなく
すべき事多しあるを孔子性ハ相近シ習ヘハ相遠シと
のたまへり

おもて人ハ石を忘れ玉ふ人ハ悪をいとふ
ものなり身をとがめ悪をいとふ人ハ行ひよ
まことをもとめ知るべきなり人ハ善をおこし身を

たしなむことをいとふハ何の為ぞや知あまねからず知あれば
よく善悪をもとなしまことをもとめきはめてもとめるひ悪の
なりをもとなしきはめてもとめるひとなりてゆくべきなり
知をひろく事ハ学問乃功なり知ハ身の内れ大
程なる日人ハ不善をとるハ只知ることなき故なり世人ハ悪
をもとなしハ悪のもとめきはめをもとめ
ばかりなる人ハ多くあるべきなり
ゆえに善のけしからぬひくきなるとばかりなる
ぶあるといまだ知あまねからずして井よいんとなしハ善のと
らざれば世の人ハ悪をとることをえざるのごとあるべ

ひとり成よ学問して知をひらきたを高くすとなしもるハ
人間の一大事なり
学問ハなにけぶめとなしたるんで手術をあらぶるこそ
なれめ学術ハ一日ハ一日あやまりてあさき方ゆあ
向ふへとをあやまりたるくしたるよ立久
まぐて身を終るまでひぐるまにまふるとも
どもいつまて西きたときてひそ法天地乃石よそ
ひさんはなを先ちひ一生の乃海ひくしたく
あるひとり学問さんと思ひ学ハ師、良友ハ
びひくしそ術とあらぶるこ先はめ式法ひもるを
易緯（エキイ）井二 易緯者ハ（ハツエキ）ハ情拓（ガク）り毫釐（ガウリ）あ千ぶまる

に千里をいとしとしてけぶらのあ多ひハ初あれど後乃あ
やまりハ千里れをたよいるるまもぐ先学術をあぶ
事あふたくしまざるんや
千里の石も一歩よりけぶまるたんぐをたれ有ふ出て河
足りとよりけぶまりそつとゆゆそやまざるしぐそうざ所
るれ学ぶんぐたよいるるとみくのぐくるべし志をと
てくたをまるびつとあるひくやまずくくる年をた
まバなどろを初を成してををよいるるざんあくべ高
人乃一法とおくつくかるそくくる年ゆれぐ大なる屆
人とちながれ
聞（ブン）見（ケン）乃智あり高智ありゆよ人の智ハ書籍よりも人人ゆ多

てもあるを云ふ也もあるものあり是を知と云ハ学ぶの智ふたつ
くるがゆゑに知をもつてもるをいふ也もあるものふたつ学
問ハまなび学ぶの智より入て出るを知とよみなをきうざれ
ばもつてもるべきやうなり学ぶ(キミ)ん学ぶ(ビ)ん学ぶ(ビ)ん学ぶ(ビ

さゞいてその心あらくなりて学問の益なきのみならず
人つて害となる人〻也己れ高きをたのみて人をそむき
もる故君子傷とあらゝびて小人傷となる物ゆゑなくて
くるへんハ学ばざるゆゑなり
学問ハ有用の学なり有用の学ハ有用の学なり有用の学ハ
ばかりなる学問なり有用の学ハ有用の学なり
とべし学問ハ学とよんでハ有用の学ハ身をもさめて
人倫の道をあつく行ひ忠孝を尽すを
して人を助をもとゝすべし貧窮なる者を救ひ
なを高ぶらずあまねく人を救ふ学問ハ有

人ハそのちゝにしたがひて其ちゝ小屈共乃
ひとれ学ハまづ身をおさむるゆゑに仁義乃心をお
やし人と助をもとゝすべし当代あるべき也
有用の学なり
さて此のゝ身小銀若ちる事をしるべきよ
乃心を求めて人倫の道をしるべき也をもて人り
道あるべきなり学問ハ有用の学なり
人ゝ物の文章詩歌をたのしみ
まんすを求めるべく日用人倫の道を求めるべきハ道もあるべい
さて事也皆是学問なり
揚子曰学ハ小求為君子也云云ハ学問とゝ為ち物

乃あるべき者なるとあんがるあり者なるとハ有徳人を云
者なれ字義ハ易の正義よりして善民をなす
のことなる徳あるを人をいふ也とくくたしかりて
もとも徳あるもの者なるとあるとは人なるあ
ちりなるハさる人ハ云あるべきなんてと者なるとあるもん
バなるべさるふ同じして人としまれるかひを者なるを
ちり事容易うべちるもどもと志をとくおこをとべ
んバ必ずも功あるべ古徳あるとの志あるものハを事成
あるなるといふなるハ徳望ちすちり一息もいまと
のこれるの内ハ此志おこるとうべ人の一生れる者
なるあちり

たとて人聖人なるべき必あるべき生はのこるなるあり気氣
質乃偏ちり有るを身をおさひるハ他ものをすぐるべ氣
質れあるべきあるをとべりうとなるとなるとなるとなる偏る
るあるべきあるかりて改めるべ人ないをなてきることを偏る
ばるかりて偏ちるあるなるなるなるなるなるなるなるなるなる
らで書ばるるなるなるなるなるなるなるなるなるなる我
氣質乃偏あるるを改めるあるなるなるなるなるなるなる事をちる事質
の偏れ言ちる事なるなるなるなるなるなるなるなるなる
苗を植てあるとをるなるなるなるなるなるなるなるなる
をあると肥しとの書ひも出なる義のあるふちりているべ
る也有るなるなる事質れあるべきあるを知りて改めるるなれ

学問する人乃ち此こゝに必ずきすべき学問なり其必ずこゝに常
いこゝを用ひて如何なる人乃あやまりわきまへ其ハ皆その
身体の偏なるなせるなれ故に其ハ必ず乗質を
変化することなし其ハ元同の要也ゆゑ乗質の偏
ハ必ずこゝろ成こゝろ成こゝろ成こ

実をのぶるとて、そこに木たち酒をあげて、其実をうゑ、その株
のもとにて、そこに木たちの古代に書とよむ。一老翁
まづ一巻の益あり書とよむ。一日あれば一日の益あり
こゝろを入れ神賀代にとゝまる書とよむ。もくハ
とゝのゝ富貴あり書とよむ。人をこゝろ
にて書とこのゝ人ハそこに次ふ。次ふ次ふ
げ志をたゞ〳〵出し、是ハ要なる也。
たとゝもしめざるハ父のあやまり不仁く云へ
こゝろを人に向ハ智と求るこゝろ
とゝふハ智とひらくなり。向ハ智を人に求るこゝろ
ハ智とゝれば求る也人に向ハざれば求るせざして

迷ひ、ひとりぐるしきこゝろ
どもを、たゞしくこゝろ自得をば、ひとあり向ハ
の二ツ理をきわめ智を明らかにする也要也
たゞ志ある人ハ、ものゝ理をきわめ、ものゝ
ぬしとなるべし。ものゝ理とハ、或ハ、ものゝ
ども文字ふかくして義理通ぜざる也。訓詁ハ、ものゝ
を人ハ、ものゝ理をとゝ、ひらく人をこれども
訓詁のものゝ理をとゝ、又ものゝ名をしるこゝろ
して其実をたゞしくこゝろ、このゝ人ハ、ものゝ
名をしるハ、其実をして、是れ、古訓をよゝ、後世人の
法をとゝ、ものゝ名をしるこゝろ、求るものゝ也。云

学にまされりといへども師伝あるといへども私乃
学よりも主の学問をきんとこころざす人は志し深くして
孔孟乃教をあきらめ程朱の伝を階梯(カケハシ)とすべし是ども
やはり主の学問より出世よいうてわきまへ多く出る故
一生涯ふるうて
学中者文学を句よ出ぶつとわ言に多く用用徳行よ心
と用ふつとわ言に是れ学問乃本意を失なう
り徳行をたとうびて文学をなじいへば酒をもて
く糟(カス)とうつかへ学問をバ行く用ひたりてよわざ
ふをこのしるり
ふをこのしるり
ふをこのしるり

こゝろをとゝのへて技をまなびつとめ事をとゝのへ事をこゝろ
こゝろ也乃学ばかりにあらず技をもまなびもちゐる根本をこゝろ
こゝろとなす又技芸をけいこ事にあてゝ学ぶの
助なり聖人といふを
ひろく博学ときはめてひろく博学ときはめて通じ其実
の体験とおもふべし中年以後は博覧をやめて専
乃要文ばかりをまなびうるひろくとらずして
自得をもとめ
いまだ見ざるをもとめ
致知を爰元乃関と云ゆへ
吾代このしるべ

所ゝ大学の諸説と吾思乃関と云ふ人と思人との
なり関とハ内外のさゝひ
聖人ハ人倫乃極なると吾ともがれ学ばまくハいとか
しこしとてどうわる者ハ
神も動ゝ志ゞこゝ聖人をうわくうてを志と云ふ
ハ志べし紀ふ千里の
じゝ理をれバ
あらゆるものゝ
もちゐ代ゝ
天ゝ
ゝ人でゝ

[illegible]一[illegible]ものよりとよハ[illegible]
ハざれば成就しかたしちなんハ[illegible]
時[illegible]ハ[illegible]
仮名書の辨ハいづれ[illegible]
[illegible]
乃いたれかをまなんて[illegible]
[illegible]
[illegible]世信乃[illegible]
[illegible]
[illegible]

聖人の書とりんをこのそ日とをぼへ[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

はるゝ心なりゝ世をさとゝ人うゝ
書とよまん学問とゝる人おもゝ彼きゝ病人をゝひ
さはこげて学問をとるゝとゝ法まゝとゝ知るゝ学問
をやしる人をゝみゝ書とよまんゝゝ海のかゝきゝ
らゝの書とよまんゝ病人にたゝる氣人をいのちをんゝ
たるゝとゝいゝゝおゝせいおやゝ法はゝゝゝ心をゝして
ゝゝとゝあるゝべきゝゝとゝひゝゝ書とよまんゝ海をゝゝ
よゝ一生文盲ゝをゝゝゝゝゝゝ身をゝるゝゝゝゝゝ
書をよまざるゝ人ゝ書とよゝ心ゝきゝひゝゝゝゝ書とよ
めゝ氣をゝ病人にたゝるゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
そゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝ人ゝれをきゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

佐人乃学問をもて法ハ学まんとしても不法なるとなん
しそうしてそうなるかてにぶけれ〳〵ちうしんとあるがごとく
知識あるくちなしゆえに学ひうる学問さらなるかぎりなん
はしこうそ身をうしなうるなり書紀よむよりてう
けるくゆえにてくちなるかんとなかいくらをー
つぐオにかちうにをこうて人とあるぞうしん乃才智ある
を以用ひて学ぶオ智のことを用ゆ古後あるを自用
まハ身ちうしんとなる佐人ハ智と用ゆハ大なりうれ
一人乃智を用ゆるハかちうしんぶ学オにかちうしんとある
ごとくいまオ学ハちうしんぶ法をそこれうもちうはあ
法あんちうハオ学ちうにがけるうふ法されうを賢ハ去

と学くよりしてもて不法なるハ学ぶ
ちうハ学ぶあるくちうしくちうしくちうし

くしく学問をこのみ物ゝ理に通ずる人
学者志を立ること高く実なる学問をこのみ
とゝのへ学問名をねがひ人にほこり
さうしハいやしき花のうゑふまじ分ゝ
学問をハ身ゆきめよとゝ
まどゝもかゝやかしいとゝ
しるをねじ学ん人ハ能ハ
徒とくれし位も法もなしてまづ分ゝ自慢する基
なる賢人君子ハ模範を
出ずるまゝとおもひ
古今とそしり人乃ふるまひ

多き学問の人ハ
と云べし人情ハ愛と
ゆゝしんとゝ不智
乃耳目とおどろかして
学問なる人うゑ学者と
て風俗と人情ハ
ふ人ハ
儒者ハ
ふ人ハ
儒者ハ
学問ハ
学問の人ハ
学問の儒術古来二千余年寒

とハ世の人文をいとゝ尊ぶゆゑ学問をもてもてあそぶ今より百年以後ハ文字の習も拙く義理の学も大ぬ暗くなりて文明の国とゝなりて後世の国ぶりかゝるべしとも後学術の明らかなるいまゝ明らかなる者の志高実ありて度人乃至とあるべきふとゝしいなどゝ信ずるとこゝ稚ぶみなり

大和俗訓巻之二終

嘉永堂蔵書